

この資料は、米国アルナイラム社が2020年3月4日(現地時間)に発表したプレスリリースを日本語に翻訳・要約し、報道関係各位の参考資料として提供するものです。この資料の正式な言語は英語であり、内容及び解釈については原文(英文)が優先されます。英語版プレスリリースは <https://www.alnylam.com/> をご参照ください。

報道関係各位

2020年3月27日

Vir社とアルナイラム社 COVID-19を含むコロナウイルス感染症に対する RNAi治療薬の共同開発に向け提携拡大

– アルナイラム社の最新の肺への薬剤送達技術の進展は
SARS-CoV-2や他のコロナウイルスを標的とするsiRNAの有用性を示唆–

– Vir社がコロナウイルスのRNAi治療薬候補の開発を主導、
アルナイラム社は50:50の損益均等配分権を保持–

カリフォルニア州サンフランシスコおよびマサチューセッツ州ケンブリッジ[2020年3月4日]– Vir Biotechnology社(Nasdaq: VIR) (以下、Vir社)およびAlnylam Pharmaceuticals社(Nasdaq: ALNY) (以下、アルナイラム社)は、本日、両社の既存の提携関係を拡大し、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の原因ウイルスであるSARS-CoV-2を標的とするRNAi治療薬の開発と実用化も共同で行うと発表しました。この合意で、アルナイラム社のsiRNA(低分子干渉RNA)新規コンジュゲートの最新の肺への薬剤送達技術、およびVir社の感染症の専門知識と能力を合わせ、SARS-CoV-2および他のコロナウイルスによる感染症の治療薬として、一つ以上のsiRNAの開発を前進させます。今回の共同開発では特に、コロナウイルスのRNAの高度に保存された領域を標的とするものとして、アルナイラム社が最近特定したsiRNAの開発に注力します。

アルナイラム社はこれまで、現存するSARS-CoVおよびSARS-CoV-2のすべてのゲノムを標的とする350以上のsiRNAをデザイン・合成してきました。これらは*in vitro*の効果検定でまずスクリーニングされます。その中で有力なsiRNA候補薬について、Vir社の科学者が抗ウイルス作用を*in vitro*および*in vivo*で評価し、開発候補薬を選定します。

開発候補薬の開発および実用化はすべてVir社が主導します。臨床のプルーフ・オブ・コンセプト(POC)が認められた段階で、アルナイラム社は抗コロナウイルス薬の開発と実用化に関わる損益の均等配分のオプションを有します。あるいは、抗コロナウイルス薬開発について合意した協業の結果得られる製品の純売上高に対して、開発と実用化のマイルストーンとロイヤリティを受け取る選択をすることも可能です。この新たなプログラムは、2017年に発表された両社の既存のライセンス契約を拡大し、最大6剤までの感染症治療の新規siRNAの開発を目指すものです。

Vir社のCEOであるGeorge Scangos博士(Ph.D.)は、「COVID-19のアウトブレイクの範囲とスピードを鑑みて、Vir社は、早急に自社の感染症の専門知識と、既存および新規パートナーの専門知識を結集するための複数のアプローチを模索しています。アルナイラム社は優れたパートナーであり、両社の能力を結集し互いに補完しあえることは、現在拡大している公衆衛生の危機に対応し得るものです」と述べています。

アルナイラム社の CEO である John Maraganore 博士 (Ph.D.) は、「RNAi は細胞内の強力な自然のメカニズムであり、これを利用することで、抗ウイルス治療薬などの広範な革新的治療薬を開発できます。非臨床における私たちの最新の siRNA 肝臓以外への送達技術は、ごく最近、肺への送達にも応用できるようになり、これらの結果はヒトにも適用できると期待しています。RNAi 治療薬は、SARS-CoV-2 などのコロナウイルスを標的とする有望な治療法だと確信しています。アルナイラム社は、RNAi 治療薬のリーディングカンパニーとして、Vir 社のような他のバイオ医薬品企業と連携し、現在発生しているアウトブレイクの対応に尽力していきます」と述べています。

両社は現在、慢性 B 型肝炎ウイルス (HBV) 感染症に対する新規の RNAi 治療の治験薬である VIR-2218 (ALN-HBV02) を共同開発しています。感染症における共同開発としては初めて臨床段階に入っており、進行中の第 I/II 相試験で VIR-2218 の安全性および有効性を検討しています。

RNAi について

RNAi (RNA interference : RNA 干渉) は、遺伝子発現抑制 (サイレンシング) という細胞内の自然なプロセスであり、現在、生物学と創薬において最も期待され急速に進歩している最先端領域の一つです。RNAi の発見は「10 年に 1 度の画期的な科学の前進」とされ、その功績に対して 2006 年にはノーベル生理学・医学賞が贈られています。RNAi 治療薬は、細胞内で生じるこの自然な生物学的プロセスを利用した新しい作用機序を持つ薬剤として誕生しました。RNAi の作用機序は、アルナイラムの RNAi 治療薬のプラットフォームである siRNA (small interfering RNA : 低分子干渉 RNA) が、疾患の原因となるタンパク質をコードするメッセンジャー RNA (mRNA) の発現を抑制 (サイレンシング) することで、そのタンパク質の産生を阻害するというものです。RNAi 治療薬は、遺伝子疾患などの治療法を変える可能性が示唆されている新たなアプローチです。

Vir Biotechnology 社について

Vir Biotechnology 社は、免疫学の知見と最先端技術を融合し、重篤な感染症の治療と予防に注力する臨床免疫学の企業です。Vir 社は自然免疫プロセスの重大な所見を活用し、免疫系を刺激、促進するようデザインされた 4 つの技術プラットフォームを構築しました。開発パイプラインには、B 型肝炎ウイルス、A 型インフルエンザ、ヒト免疫不全ウイルス、および結核を標的とする 5 つの製品候補があります。詳細については、ウェブサイト www.vir.bio をご参照ください。

Alnylam Pharmaceuticals 社について

Alnylam Pharmaceuticals 社 (Nasdaq: ALNY) は、RNAi 技術を、遺伝性希少疾患、循環器・代謝系疾患、肝感染症、および中枢神経系・眼科疾患の患者さんの治療や生活の質を改善することが期待される医薬品に応用するリーディングカンパニーです。RNAi 治療薬はノーベル賞を受賞した科学に基づいており、アンメットニーズの高い難治性疾患を臨床的に実証されたアプローチで治療します。当社は、2002 年の設立以来、RNAi 治療プラットフォームにより、科学的可能性を現実のものにするというビジョンを実現しています。当社の製品である RNAi 治療薬「オンパットロ®」(パチシラン) は、米国、EU、カナダ、日本、ブラジル、スイスにおいて承認されており、givosiran は米国および EU において承認されています。当社は、開発後期段階にある 5 つの製品候補を含む、充実したパイプラインを有しています。今後も引き続き、治療選択肢が不十分で限られている患者さんのニーズに応えるため、持続可能な RNAi 治療薬のパイプラインを持つバイオ医薬品企業を目指します。当社はマサチューセッツ州ケンブリッジに本社を置きます。詳細は、弊社ウェブサイト www.alnylam.com、Twitter @Alnylam、または LinkedIn でご覧ください。

Vir 社の将来予測情報 (FLS)

本プレスリリースの将来予測情報は、1995 年の私的証券訴訟改革法の免責条項に基づいています。「可能性がある」、「予定である」、「期待される」、「予想される」、「予測される」、「意図する」、「潜在的な」などの用語とそれに準ずる表現 (および将来のできごと、条件、または状況に言及する用語や表現) は、将来予測情報を特定する目的で使用されています。これらの将来予測情報は、Vir 社の本プレスリリースの発行日時点の予測および想定に基づきます。それぞれの将来予測情報はリスクおよ

び不確実性を伴い、実際の結果が将来予測情報と実質的に異なる可能性もあります。このプレスリリースに含まれる将来予測情報には、アルナイラム社との協業の拡大で得られるベネフィットの可能性、開発候補薬の特定と選択の是非、開発候補薬の開発と商品化の是非、および現在発生している社会的健康問題に対応する Vir 社の能力についての記述が含まれます。現在の予測と実際の結果に違いが生じる原因としては、期待した非臨床および臨床試験の安全性および有効性データが得られないこと、開発候補薬の特定と選択の難しさ、他社や行政との連携の難しさ、生産力の不足、感染症治療薬の開発の難しさなど、多くの要因があり得ます。本プレスリリースの将来予測情報に記述または示唆した内容と実際の結果が異なる他の要因については、Vir 社の米国証券取引委員会への提出書類、特に「リスクファクター」と題した章に考察しています。Vir 社は、法によって要求される場合を除き、新しい情報を入手した場合においても、ここに記述した将来予測情報を更新する責任を負いません。

アルナイラム社の将来予測情報 (FLS)

1995 年の私的証券訴訟改革法の免責条項が適用される将来予測情報には、本プレスリリースにおけるアルナイラム社の未来の予測、計画、見通しに関する様々な記述、つまり、非臨床における最新の siRNA 肺送達技術のヒトへの応用、COVID-19 の原因ウイルスである SARS-CoV-2 や他の CoV RNA の高度に保存された領域を標的とする siRNA の可能性、新興の公衆衛生問題・エビデミックに Vir 社と協業して対応する能力、RNAi 治療薬の前進と実用化に関する「Alnylam 2020」戦略の見通しなど、RNAi 治療薬の可能性に関するアルナイラム社の見解と計画を含みますが、これに限定されるものではありません。実際の業績や将来の計画は、CoV RNA を標的とする候補薬など、新薬候補、ならびに経肺薬剤送達を含む薬剤送達法のアルナイラム社の創出・開発能力、および CoV RNA を標的とする候補薬など、新薬候補の有効性と安全性を実証する能力、非臨床および臨床結果が再現されない、または他被験者や他試験で反復されず、特定の適応症またはいずれの適応症をも対象として開発を継続することが正当化されないリスク、規制当局の処置や勧告により臨床試験のデザイン、開始、実施時期、継続および／または進行が影響を受ける、あるいは結果として非臨床および／または臨床の追加試験が必要となるリスク、新薬候補または販売薬の製造および供給の遅延、中断、または障害のリスク、知的財産の取得、維持、および保護、プラットフォーム、製品および製品候補に関する特許訴訟などの知的所有権事項、lumasiran や CoV RNA を標的とする他の製品候補の承認取得、オンパットロと givosiran などの製品の承認の維持、ならびに薬価と保険適用の取得、販売インフラおよび米国外インフラの継続的な構築の前進、オンパットロと givosiran などの承認された製品の世界的な上市、マーケティング、および販売の成功、さらにオンパットロの 2020 年の販売目標の達成、将来的にオンパットロの適応症拡大を成功させるアルナイラム社の能力、アルナイラム社と類似した技術を使用あるいは類似の用途に向けた製品を開発する競合の存在、予期された戦略の範囲内において企業成長と経営費を管理しつつ将来的に自立存続可能な財務プロファイルを達成し、事業活動を支援する追加資金の取得および戦略的な業務提携と新たな事業イニシアチブを確立・維持するアルナイラム社の能力、眼科および中枢神経系の製品など、特定の製品の開発、製造、流通のためのリジェネロン社を含む第三者への依存、US における givosiran の教育と販売促進のためのアイアンウッド社への依存、訴訟の結果、政府調査、予期しない支出のリスク、ならびにアルナイラム社の最新の年次事業報告書で証券取引委員会 (SEC) に提出したフォーム 10-K および SEC への他の提出書類に詳述した「リスク要因」などを含む、しかしこれらに限定されない、様々な重要なリスク、不確実性、その他の要因の結果として、本プレスリリースに示した将来予測情報と大きく異なる可能性があります。また、本プレスリリースに示した将来予測情報は本日時点のアルナイラム社の見解に基づくものであり、本日以降には該当するものではありません。アルナイラム社は、将来予測情報の更新に関するいかなる責任について、法によって要求される範囲を除き、明示的に放棄します。

本プレスリリースに関する問い合わせ先:

Alnylam Japan 株式会社

TEL: 03-6629-6180

Mail: press@alnylam.com